

# 平成28年度 学校評価

兵庫県立錦城高等学校

## 1 教育目標

家計支援や時間の有効活用の観点から、仕事と学業の両立を図る定時制高校の生徒にとって、卒業後の職業選択の幅を広げるため、学力向上は必要不可欠である。また、近年増加している学校生活に馴染みにくさを抱えている生徒にとっては、集団生活を営む上で必要な基本的な生活習慣や規律、基礎学力の習得が望まれる。それらを踏まえ、「確かな学力の習得」「社会性の涵養」「将来を切り拓く強い心の醸成」を目指す。

## 2 経営方針

1. 個々の生徒の実情に対応できる組織づくり
2. 自己肯定感を高めあえる風土の醸成
3. 安心・安全な活動場所づくり

## 3 平成28年度の重点

- |   |                            |
|---|----------------------------|
| ① | 生徒主体の学校生活創出に向けた「仕掛けづくり」の充実 |
| ② | 社会性の涵養を目指したキャリア教育の体系化と推進   |
| ③ | 校内組織連携強化による生徒支援体制の構築       |
| ④ | 防災教育を通じた自己理解と他者理解の推進       |

## 4 学校自己評価 (A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

領域	具体的目標	重点	具体的方策	評価	次年度への課題
教科指導	基礎的・基本的事項が定着するよう教科指導に努める	①	習熟度別指導や同室複数指導の効果的活用	B	新たに設けた学校設定教科科目および総合的な学習の時間の新展開の定着を図る。各教科科目における適性指導人数を検証し、少人数指導の見直し、改善を図る。公開授業週間の定着および授業研究会の充実を目指す。生徒による授業評価のシステム化については、個々の取り組みを参照しつつ、適切なあり方を検討する。
		②	「学力アップ講座」や「社会人基礎力アップ講座」を開設する	C	
	生徒個々の能力・適性を伸ばし、自ら学ぶ意欲と態度を養う	① ②	定時制普通科としての開講科目や総合的な学習の時間のあり方を見直す	B	
	「わかる授業」にむけて、授業研究や教材開発を行う	①	公開授業を積極的に行うとともに、生徒による授業評価を活用する	C	

領域	具体的目標	重点	具体的方策	評価	次年度への課題
生徒指導	規律ある生活習慣を身につけさせ、規範意識を高める	②	挨拶運動、マナーアップ週間を実施するとともに、ネット・スマホマナーの指導を行う	C	「生徒心得」の見直しによる指導基準の確定をうけて、日常的に規律、規範指導をおこなう。体育祭、文化祭に加えて、新入生歓迎行事など生徒が主体となる活動の充実を図る。学年会議の定例化を継続し、とりわけ特別な支援が必要な生徒に関する情報の一層の共有化を図る。指導領域の全てにおいて、カウンセリンググマインドに留意する。
	生徒が主体となる活動を企画・推進した		クラス企画を主とする文化祭を実施する清掃活動、ボランティア活動等の充実	A	
	生徒とのふれあいを密にし、多様な生徒の内面理解に努める	②	三者面談、二者面談を効果的に活用し、学年会等での生徒情報を共有化する	B	
進路指導	計画的な進路指導を行い、進路意識の高揚を図る	① ③	学年毎のキャリア教育プランを見直す 進路ガイダンスや進路LHRを適宜行う	B	校務分掌の改編をうけて、進路指導部が保有する有形無形の「進路指導資産」の有機的連関を図り、組織改革の実をあげる。今年度の成果をうけて、指導方針、指導方法を継続する。キャリア教育では、新学校設定教科科目や総合的な学習の時間との関連に留意する。
	個々の生徒に適切な指導が行える指導体制を確立する	② ③	進学・就職指導体制を整備する 進学・就職指導にかかる指導力を高める	B	
	キャリア教育の一環として進路指導を推進する	③	インターンシップや職場見学、オープンカレッジ参加等を奨励・支援する	B	
環境整備	防災体制の整備・充実を図る	④	避難訓練の振り返りを行い、防災マニュアルを不断に見直す	C	防火・防災計画については法令に基づく様式に改訂する。避難訓練については事前準備を十分行い、共通理解を得て行う。
	スペースの有効活用を図る	①	理科準備室等錦城高校専用室を整備する	B	

## 5 学校自己評価に対する学校関係者評価

学校自己評価は概ね妥当であるが、生徒アンケートに見られる学年による温度差や保護者アンケートに見られる情報発信への不満が気にかかる。教員アンケートも教員数が少ないので集計結果の扱いに注意を要する。生徒の成長が目に見えるような形で検証できる、そのような評価方法、評価項目を研究していただきたい。